

2010（平成22）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

一 近代では、人間の自己の核心である内面が、他人には隠しておきたいという意識の対象とみなされるようになったということ。

*「内面のプライバシー」＝「内面がプライバシーとみなされるようになった」と、句を節に適切な仕方では置換してから、「説明」する。「プライバシー（私秘性）」の置換は、本文中の表現「他人の目から隠しておきたいと思う」ことや「秘密の空間」から、適切に考える。

二 個人の内面と結びついた社会的自己のイメージやアイデンティティは、個人が自らの責任で意識的に守るものとされたから。

*傍線部を含む一文から、「なぜ」の答えは「個人が自らの社会向けの自己をイジするためのもの」であることは明らかである。この内容を前段から見出してまとめる。

三 情報化が進むと、内面を見なくても個人情報によって手軽に手っ取り早く、より客観的で公平に個人を知ることができるから。

四 今やプライバシーが秘密の空間ではないとは、個人の内面から個人情報への中心の変換という現状を表しているということ。

*「現に起こっている～に対応している」という構文まで適切に表現できているかどうか。

五 近代社会では人間の自己の核心は個人の内面にあったが、今日の情報化社会では個人の内面や私生活を管理する情報システムこそがプライバシーの中心となりつつある。個人は内面的な自己だけではなく、自己の外部で情報化された人格としても評価されるに至った。（一二〇字）

六 a 防壁 b 維持 c 攻撃 d 皮膚 e 保護